

はじめに

館長 岩井秀昭

本学院図書館では児童・生徒・学生・教職員の教育・学術研究に資し、その運営の適正と円滑を期することを目的とし、いきいきとした学院をつくるためにさまざまな教育活動を支援しています。児童・生徒・学生の学習活動や教職員の研究活動に役立つ資料提供、また一人ひとりの楽しみや好奇心を満たすための資料提供によって、図書館は利用者である児童・生徒・学生や教職員の「見たい」、「読みたい」、「知りたい」という要求に応えるよう努めています。

生涯学習の点においても、図書館の役割には大きいものがあります。情報収集の場として、図書館を大いに活用していただきたいと思います。

学院図書館は、幼稚園から短期大学までの「総合学院図書館」として、また卒業生や保護者の方々、さらには広く一般の方に利用して頂いています。

児童書から専門書までの幅広い豊富な資料(約18万冊)を所蔵し、常に利用者の皆さんの来館をお待ちしています。

皆様の忌憚のないご意見・ご感想などをいただき、今後も更なる蔵書の充実、利用の拡大そしてより良い運営を目指してまいりたいと思っています。

大阪信愛女学院図書館活動方針

1. 基本方針

図書館では、学生・生徒・児童が建学の精神にもとづき、女性としての豊かな心を養うと共に、物事を正しく判断して行動し、進んで社会に奉仕できる明朗で健康な人となるように、図書館の機能を通して支援する。

情操面ではもちろんのこと、生涯学習社会、情報化社会に生きる者として、柔軟に対応できるよう、情報の持つ意味、情報の取捨選択、その利用や表現といった情報活用面についても、日常の図書館利用を通して習得することを支援する。

これらの実現のために、次のような活動を推進する。

様々な興味・関心、また多様な価値観を持つ学生・生徒・児童たちに、自由で楽しい読書の場を保障し、必要に応じた情報の提供を徹底して行う。

学生・生徒・児童の学習や自主的な活動、教職員の教育活動に対して、積極的に支援する。一層充実した情報提供ができるよう、必要な資料の収集に努める。

これらのことを円滑に行うため、図書館員は常に研鑽に努める。

2. 方針の具体化

だれもが利用しやすい図書館づくり

- ・「図書館に行ってみよう」と思われる努力と工夫をする。
- ・初めての人でも気軽に入りやすい雰囲気づくりをする。
- ・日常的に図書館を利用してもらえよう努力する。
- ・館内表示を誰が見ても分かりやすいように工夫する。
- ・障害を持っている人も利用しやすい図書館にする。
- ・図書館に対し良い印象を持ってもらえるように、特にカウンターでの対応に注意する。
- ・広く利用者の要望を図書館運営に反映させるよう努める。

資料提供を徹底的に行う

- ・利用者が図書館員に気軽に質問できる環境を整える。
- ・利用者の疑問について答える。
- ・利用者が求める資料や情報を迅速・的確に提供する。
- ・図書館員は利用者の様々な疑問に速やかに対応できるよう研鑽に努める。

リクエスト制度を理解してもらう

- ・図書館にない本は、買ってもらえることを周知徹底する。
- ・購入が困難なものは、他館から借りられることを周知徹底する。
- ・掲示などを通して広く利用者に知らせる。

新鮮で魅力的な資料の充実を心がける

- ・学生・生徒・児童が関心のある資料を積極的に購入する。
- ・授業で利用が見込まれる資料を積極的に購入する。
- ・図書館の収集方針に従い、適正な資料の充実を心がける。

授業との連携を積極的に行う

- ・教師に図書館の働きを理解してもらえよう努力する。

- ・ 教師に図書館を使った実践例の紹介をする。
- ・ 宿題等の課題は事前に把握するよう努め、速やかに資料を提供できるようにする。
- ・ 資料の利用方法や情報検索等の指導を通して、情報活用能力の育成に努める。

図書館を知ってもらうために広報活動を行う

- ・ 図書館活動について、学院関係者に周知徹底する。
- ・ ホームページを利用し最新の情報を提供する。
- ・ 図書館報、新着案内や展示・掲示を積極的に展開する。

3 . 2008 年度の活動重点項目

図書館利用の活性化

- ・ 教師に「図書館ニュース」などを通して、図書館を使った授業実践例の紹介など様々な働きかけを展開する。
- ・ 魅力ある蔵書づくり、新着図書案内や特別展示の図書館資料の紹介、リクエスト制度の周知徹底など、様々な図書館活動を通して貸出の増加に繋がるような活動をする。

4 . 資料収集方針（2000 年 2 月 23 日策定）

<趣旨>

大阪信愛女学院図書館（以下「図書館」という）は、資料提供を通して、児童・生徒及び学生が学ぶ喜びや読む楽しさを体験できるよう援助するとともに、教職員の教育・研究活動を支援するという役割を持っている。その役割を果たしうる図書館であるために、常に利用者（児童、生徒、学生、教職員等）の声に耳を傾け、魅力ある図書館資料（以下「資料」という）の収集に心掛け、以下のような方針で資料を収集する。

< 資料の範囲及び種類 >

1 . 授業の補助になるもの

（授業や課題、学校行事、クラブ活動などで必要なもの。また、利用が見込まれるもの。）

2 . 調査研究に必要なもの

（利用者の調査・研究及び教育活動に必要なもの。また、利用が見込まれるもの。）

3 . 教養を高めるもの

（人格の形成及び向上に必要な、一般教養及び時事問題を扱っているもの。広い視野と多様な考えに目を開かせるもの。）

4 . 利用者が必要とするもの

（利用者の知的好奇心を刺激するもの。利用者の要求が予想されるもの。利用者のリクエストにはできる限り応じる。）

冊子体の資料の他に、デジタル資料、オーディオビジュアル資料なども適宜必要に応じて収集する。

. 運営

1 . 職員

- ・ 図書館長 岩井秀昭
- ・ 副館長 永野ゆみ子
- ・ 課長 谷嶋正彦
- ・ 係長 濱岡賢二
- ・ 司書 河野香織、金森陽子、守屋美玲
- ・ 嘱託職員 川島眞治

2 . 各校図書館教育委員

- | | 図書館教育委員 | 図書館担当職員 |
|--------|----------------------|---------|
| ・ 短期大学 | 藤本久夫、西野芳治、鈴木万里子、市川隆司 | 濱岡賢二 |
| ・ 高等部 | 今福謙、荷出順子、渡辺敦、堤久人 | 永野ゆみ子 |
| ・ 中等部 | 山置裕子、藤井政也 | 谷嶋正彦 |
| ・ 小学校 | 荒井祐子、猪田めぐみ | 金森陽子 |
| ・ 幼稚園 | 馬場理香、谷口亜弥 | 守屋美玲 |

3 . 管理運営

- ・ 図書館の管理・運営総括 岩井秀昭
- ・ 図書館業務総括 永野ゆみ子、谷嶋正彦
- ・ 図書発注・受入・支払 谷嶋正彦、河野香織、金森陽子
- ・ 図書の分類・目録 濱岡賢二、永野ゆみ子
- ・ 図書の装備 川島眞治、濱岡賢二、永野ゆみ子
- ・ 雑誌受入 守屋美玲、河野香織
- ・ 予約・督促 金森陽子、守屋美玲
- ・ 図書館間相互貸借 濱岡賢二

4 . 図書館外業務

- ・ 図書館防災管理責任者 岩井秀昭
- ・ 図書館教育委員会 谷嶋正彦
- ・ 災害対策委員会 濱岡賢二
- ・ メディア教育推進委員会 永野ゆみ子
- ・ ホームページ委員会 守屋美玲

5 . 図書館教育委員会

2004 年度より各校に図書館教育委員の先生方を任命していただき、図書館教育委員会が発足した。学院の中の図書館として活動するには、教職員の協力は欠かせない。相互理解を深めていき、今後に向けて少しでも協働して何かができればという考えをもとに 5 月 24 日に図書館教育委員会の会議を行った。

- 1) 2006 年度活動報告について報告・説明
- 2) 2007 年度活動方針について報告・説明
- 3) 図書館利用についてのお願い
- 4) 委員の先生方から図書館に対するご意見・要望を伺う

6. 図書館カレンダー

4月

- ・大阪信愛女学院図書館ニュース No.6 発行 (3日)
- ・短大新生オリエンテーション実施 (4・5日)
- ・中等部・高等部の保護者に学院図書館の利用案内を配布 (7日)
- ・高等部新生オリエンテーション実施 (10日)
- ・各校に平成 19 年度図書予算を通知 (11日)
- ・幼稚園の保護者に学院図書館の利用案内を配布 (12日)
- ・中等部新生オリエンテーション実施 (12-13日)
- ・小学校オリエンテーション実施 (12・17-19日)

5月

- ・各校に学術雑誌購読についての調査実施 (1日)
- ・図書館 2 階インターネットコーナーコンピュータ 1 台入れ替え (2日)
- ・第 19 回古書展示会 (7-12日)
- ・各校に第 1 回図書館教育委員会開催の案内 (8日)
- ・小学校オリエンテーション実施 (16日)
- ・第 1 回図書館教育委員会 (24日)
- ・平成 18 年度図書館活動報告書 + 活動方針を各校部署主担者に配布 (24日)
- ・館外蔵書点検 (28日)

6月

- ・中学生の北海道修学旅行関係の資料を図書館 2 階カウンター横に別置 (4日)
- ・短大にて「蔵書点検のお知らせとお願い」説明 (15日)
- ・高校生の沖縄修学旅行関係の資料を図書館 4 階研究室 41 の前に別置 (20日)
- ・小学校入試説明会参加者図書館見学 (30日)

7月

- ・館内蔵書点検 (2-24日)
- ・館外蔵書点検 (4・6・9・11・12日)
- ・各校に図書予算残高を通知 (5日)
- ・平成 19 年度除籍リスト提出 (9・11日)
- ・中等部・高等部オープンキャンパス参加者図書館見学 (14日)

8月

- ・館内蔵書点検 (1-24日)
- ・中等部・高等部オープンキャンパス参加者図書館見学 (26日)

9月

- ・小学校入試説明会参加者図書館見学 (1日)
- ・館外蔵書点検 (1-28日)
- ・中等部・高等部塾対象入試説明会参加者図書館見学 (4日)
- ・各校に図書予算残高と図書購入申請受付期限を通知 (28日)

10月

- ・小学生（4年）コンピュータ検索の使い方のオリエンテーション（9・10・12・16・17・19日）
- ・第三者評価委員視察・図書館見学（11日）
- ・中等部・高等部保護者対象入試説明会・オープンキャンパス参加者図書館見学（20日）
- ・短大の各研究室に研究室図書一覧を配布（22日）

11月

- ・学外者利用規程を一部改正（1日）
- ・研31にビデオとDVD一体型機器設置（8日）
- ・中等部・高等部保護者対象入試説明会・オープンキャンパス参加者図書館見学（17日）
- ・中学生に図書館利用調査アンケート実施（20日）

12月

- ・平成20年度予算申請書提出（12日）
- ・図書館2階事務室内のFAX機入れ替え（14日）
- ・高校生に図書館利用調査アンケート実施（15日）
- ・大阪府高等学校図書館研究会 司書教諭交流会・図書館見学（21日）

1月

- ・各校に学術雑誌購読についての調査実施（15日）
- ・短大生（初教2回、人環1・2回）図書館利用調査アンケート実施（17日）
- ・図書館2階閲覧室に掲示用のコルクボード設置（22日）
- ・図書館2階閲覧室にひまわり文庫設置（25日）
- ・図書館2階閲覧室の絨毯敷きの所土足利用可（25日）
- ・短大生（初教1回）図書館利用調査アンケート実施（30日）

2月

- ・図書館2階インターネットコーナーの利用方法について変更（1日）
- ・付属高校・短大に進学する中3・高3対象に貸出開始（28日）

3月

- ・平成19年度除籍リスト提出（6日）
- ・平成19年度図書館資料決算報告提出（13日）
- ・灘中・高等学校図書委員と交流会・図書館見学（17日）
- ・図書館2階閲覧室に絵本書架搬入（19日）
- ・図書館1階の絵画を短大・飯田先生作の絵画4点に掛け替える（31日）

7. 出張、研修

5月

- ・私立短期大学図書館協議会近畿地区協議会 2007年度総会・第1回研修会（11日 京都文教短期大学 - 濱岡）

7月

- ・図書館問題研究会 第54回全国大会（9日 アウィーナ大阪 - 谷嶋）

8月

- ・学校図書館問題研究会 第23回全国大会（1-3日 三重 - 谷嶋・金森）
- ・私立短期大学図書館協議会近畿地区協議会 第2回研修会（28日 国立国会図書館関西館 - 守屋）

9月

- ・平成 19 年度「図書館とNIIの集い」(25日 京都 - 濱岡)

10月

- ・平成 19 年度 第 93 回 全国図書館大会 (29-30日 東京 - 谷嶋)

11月

- ・私立短期大学図書館協議会近畿地区協議会 第 3 回研修会 (21-22日 大阪市立大学学術情報総合センター - 守屋)
- ・大阪府高等学校図書館研究会 司書教諭交流会事前会合 (30日 大阪信愛女学院高等学校 - 谷嶋)

12月

- ・大阪府高等学校図書館研究会 司書部第 3 地区 第 4 回研修会 (12日 プール学院 - 永野)
- ・大阪府高等学校図書館研究会 司書教諭交流会 (21日 大阪信愛女学院高等学校 - 谷嶋)

1月

- ・大阪府高等学校図書館研究会 司書部第 3 地区 第 5 回研修会 (15日 大阪府立淀川工科高校 - 谷嶋)

8 . 土曜開館

原則として中・高の授業に対応し、第 2 土曜日を除き開館している。2007 年度は 31 回土曜日開館を行った。開館時間は午前 8 時 10 分から午後 3 時までとし、放課後にビデオやDVDを鑑賞できる時間を設定したが、閉館時までの利用はほとんど無く、有効な利用がなされていないのが現状である。今後のさらなる広報が必要と思われる。

9 . 広報活動

- ・主に学生・生徒を対象とした新着図書案内『あたらしい本』を不定期ではあるが 21 回発行した。また、図書館前の掲示板には新着図書案内や各種ポスターを掲示し、随時入れ替えを行っている。
- ・インターネット上の図書館のサイトには、お知らせや開館カレンダーなどを随時アップロードしている。
- ・教職員を対象とした図書館ニュースを 4 月に発行した。図書館活動について理解していただけるように、今後は年 2 回程度発行予定である。
- ・幼稚園では『幼稚園としょかんつうしん』『図書館案内(幼稚園先生版)』、小学校では『図書館だより(小学校版)』、中・高等部では『らい ぶらり』『図書館ニュース(先生方へ)』を発行した。

10 . 学外者利用

2003 年度より学外者利用規定を施行し、これまでの保護者・卒業生に加えて学外者にも図書館開放を行っている。2007 年度は、資料閲覧のための来館が 6 件あった。

．全体統計資料

1．蔵書冊数(2008年3月31日現在)

短期大学	高等部	中等部	小学校	幼稚園	合計
96,757	47,907	12,650	15,429	5,318	178,061

* 蔵書数には図書・ビデオ・DVD・LD・CD・カセットを含む。

2．年間受入資料数

		短期大学	高等部	中等部	小学校	幼稚園	合計
購入	冊数	3,173	1,388	500	770	296	6,127
	金額	7,199,968	2,199,918	799,716	999,722	299,170	11,498,494
寄贈	冊数	331	136	36	75	16	594
	金額	420,316	178,929	28,013	87,642	20,020	734,920
合計	冊数	3,504	1,524	536	845	312	6,721
	金額	7,620,284	2,378,847	827,729	1,087,364	319,190	12,233,414

* 詳細は各校の年間受入資料数を参照のこと。

3．除籍冊数

短期大学	高等部	中等部	小学校	幼稚園	合計
421	711	239	367	185	1,923

2007年度も古本・不明本・破損本の除籍を行った。中・高・短大の古本は分野を問わず、地下電動書架の未登録本を整理し、幼稚園は保育室の古本を中心に除籍を行った。

除籍した図書は古書展示として利用者に提供している。

4．購読雑誌・新聞数

	日本語	外国語	合計
雑誌	167種	6種	173種
新聞	12種	1種	13種

5．開館日数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計(日)
17	23	25	24	6	22	25	23	18	20	23	15	241

6．文献複写依頼件数

	件数	依頼者数
発注	32	4
受注	4	

7. 図書の館外貸借冊数

	国公立大学	私立大学	その他	合計
貸出	0	7	6	13
借用	0	2	10	12

その他とは、公共図書館・各種研究所のことを言う。

8. 貸出統計(5年間の推移)

貸出冊数及び1人当たりの貸出数

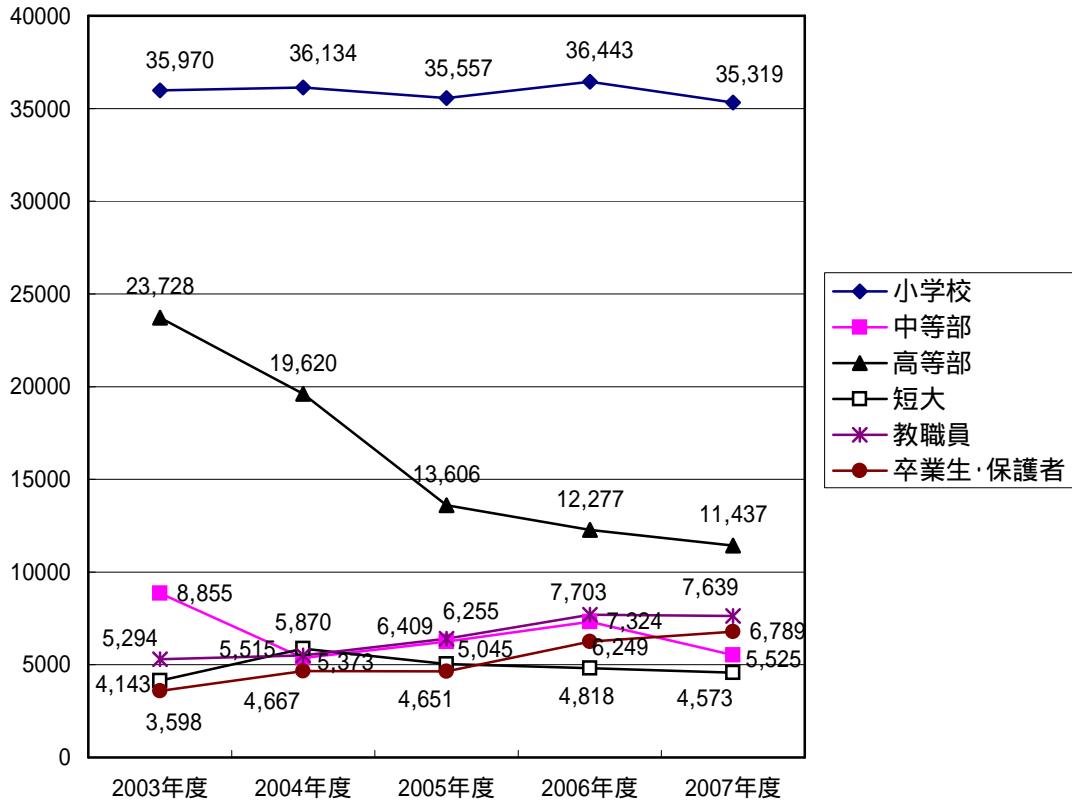
		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
対象人数(人)	小学校	565	547	542	544	530
	中等部	413	358	328	294	289
	高等部	1,004	897	801	724	658
	短大	387	394	386	377	317
	教職員	280	267	267	271	269
	卒業生・保護者	450	474	467	336	293
	合計	3,099	2,937	2,791	2,546	2,356
貸出冊数(冊)	小学校	35,970	36,134	35,557	36,443	35,319
	中等部	8,855	5,373	6,255	7,324	5,525
	高等部	23,728	19,620	13,606	12,277	11,437
	短大	4,143	5,870	5,045	4,818	4,573
	教職員	5,294	5,515	6,409	7,703	7,639
	卒業生・保護者	3,598	4,667	4,651	6,249	6,789
	合計	81,588	77,179	71,523	74,814	71,282
1人当たり 貸出冊数(冊) (小数点第一位 四捨五入)	小学校	64	66	66	67	67
	中等部	21	15	19	25	19
	高等部	24	22	17	17	17
	短大	11	15	13	13	14
	教職員	19	21	24	28	28
	卒業生・保護者	8	10	10	19	23
	平均	26	26	26	29	30

* 2005年4月より開館時間の変更(平日8:10~17:30、土8:10~15:00)

* 2006年7月3日~24日まで開館時間延長試行期間(平日8:10~18:30)

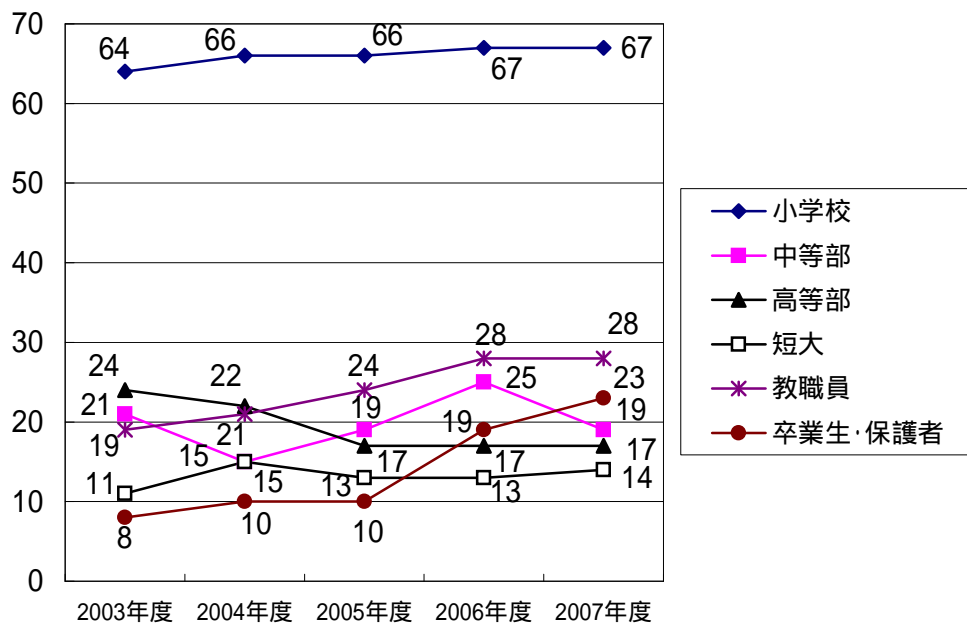
学校別貸出冊数推移

(単位:冊)



一人当たり貸出冊数

(単位:冊)



分類別貸出冊数

	総記(000)	哲学(100)	歴史(200)	社会科学(300)	自然科学(400)
小学校	72	534	1,351	974	1,943
中等部	5	81	76	91	121
高等部	24	192	561	343	245
短大	1	117	49	1,540	237
教職員	112	532	608	1,240	427
卒業生・保護者	29	282	269	566	296
合計	243	1,738	2,914	4,754	3,269

	技術(500)	産業(600)	芸術(700)	言語(800)	文学(900)
小学校	1,218	1,029	1,408	586	26,204
中等部	151	39	1,633	167	3,064
高等部	400	48	3,771	457	5,355
短大	186	35	1,225	47	1,127
教職員	316	111	2,133	267	1,721
卒業生・保護者	287	36	1,415	181	3,347
合計	2,558	1,298	11,585	1,705	40,818

資料別貸出数

		2003年度		2004年度		2005年度		2006年度		2007年度	
中等部	図書	6,542	74%	4,108	76%	5,002	80%	5,961	81%	4,682	85%
	視聴覚	2,313	26%	1,265	24%	1,253	20%	1,363	19%	843	15%
高等部	図書	16,462	70%	14,166	72%	10,623	78%	9,301	76%	9,294	81%
	視聴覚	7,266	30%	5,454	28%	2,983	22%	2,976	24%	2,143	19%
短大	図書	3,302	80%	4,932	84%	4,194	83%	4,095	85%	3,822	84%
	視聴覚	841	20%	938	16%	851	17%	723	15%	751	16%
教職員	図書	4,024	76%	4,470	81%	4,921	77%	5,874	76%	5,973	78%
	視聴覚	1,270	24%	1,045	19%	1,488	23%	1,829	24%	1,666	22%
卒業生・保護者	図書	3,145	87%	4,282	92%	4,362	94%	5,605	90%	6,099	90%
	視聴覚	453	13%	385	8%	289	6%	644	10%	690	10%

* 小学校は図書のみ利用のため対象外とする。

* 視聴覚資料とはCD・カセット・ビデオ・LD・DVD等、印刷メディア以外の資料を指す。

* 右欄のパーセント(%)は全貸出数に占める割合を示す。小数点第一位四捨五入。

9. 資料別予約件数

		2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
中等部	図書	500	272	269	354	311
	CD	224	97	44	101	48
高等部	図書	1,263	1,163	623	480	556
	CD	578	232	94	131	96
短大	図書	16	41	22	49	52
	CD	36	7	7	7	1
教職員	図書	238	384	408	477	586
	CD	9	10	10	14	11
卒業生・保護者	図書	47	59	67	63	66
	CD	9	0	2	8	5
合計	図書	2,064	1,919	1,389	1,423	1,571
	CD	856	346	157	261	161
	総計	2,920	2,265	1,546	1,684	1,732

* 教職員のみ、CDにDVDなどの視聴覚資料全ても含む。

10. 購入希望受付件数

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
中等部	250	57	49	167	115
高等部	579	494	520	314	288
短大	9	20	6	49	14
合計	838	571	575	530	417

* 教職員は購入申請のため除く。

* 卒業生・保護者の購入希望は受け付けていないため除く。

* 絶版などで入手できなかったものも含む。

11. 館内施設利用件数

研究室利用件数（過去5年間）

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
学習	673	521	706	618	594
中等部	88	56	37	139	144
高等部	525	436	609	427	409
短大	34	18	57	47	27
初等教育	27	17	47	46	25
人間環境	7	1	10	1	2
卒業生・保護者	26	11	3	5	14
ビデオ	315	190	107	68	41
中等部	97	50	27	23	8
高等部	156	126	68	34	21
短大	55	6	11	10	11
初等教育	45	3	11	10	11
人間環境	10	3	0	0	0
卒業生・保護者	7	8	1	1	1
L D	4	8	0	0	0
中等部	0	4	0	0	0
高等部	2	3	0	0	0
短大	2	1	0	0	0
初等教育	0	0	0	0	0
人間環境	2	1	0	0	0
卒業生・保護者	0	0	0	0	0
D V D	358	328	464	647	724
中等部	125	83	96	233	240
高等部	208	211	312	286	388
短大	22	29	46	122	92
初等教育	14	26	35	97	89
人間環境	8	3	11	25	3
卒業生・保護者	3	5	10	6	4
全利用回数	1,350	1,047	1,277	1,333	1,359

* グループでの利用は1回とする。

C D機器利用件数(過去5年間)

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
中等部	64	22	8	18	17
高等部	100	71	6	11	16
短大	23	3	17	6	11
初等教育	19	3	17	5	11
人間環境	4	0	0	1	0
卒業生・保護者	3	0	0	1	2
合計	190	96	31	36	46

カセット機器利用件数(過去5年間)

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
中等部	2	0	0	1	0
高等部	1	0	0	0	0
短大	0	0	0	0	0
初等教育	0	0	0	0	0
人間環境	0	0	0	0	0
卒業生・保護者	0	0	0	0	0
合計	3	0	0	1	0

インターネット利用件数(過去5年間)

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
中等部	-	-	186	822	1,295
高等部	-	-	171	180	277
短大	-	-	2	3	1
初等教育	-	-	2	1	0
人間環境	-	-	0	2	1
卒業生・保護者	-	-	0	2	4
合計	-	-	359	1,007	1,577

* インターネット利用のカウントは、昼休みと放課後のみとしている。

* 2005年1月よりインターネットを申し込み制にしたため、2003～2004年度のデータは空欄とする。

研究室利用、C D機器利用ともに2006年度に比べ増加している。中学生の学習や、中・高生のDVD鑑賞の利用が増えたためだと考えられる。インターネット利用に関しては、中・高生の利用が多い。

LD・カセットテープの利用はなく、視聴覚の出版形態がLD・ビデオからDVD、カセットテープからCDへと時代の流れとともに変化してきているためと思われる。

資料の貸出数は2006年度に比べ卒業生・保護者で増加しており、図書館利用が増えてきたのは喜ばしいことである。今後も、図書館活動方針にも掲げているように、だれもが利用しやすい図書館づくり、新鮮で魅力的な資料の充実などを心がけて活動していく必要がある。

. 短期大学活動報告・統計

1 . 活動報告

1) 新入生オリエンテーション

1 回生オリエンテーションガイダンス期間中に、初等教育学科は 25 名 4 グループ、人間環境学科は 11 名 3 グループに分けて、50 分間の図書館利用ガイダンス（利用説明、館内ツアーなど）を実施した。また、人間環境学科のみ鶴見学舎において、10 分間のメディアコーナーの利用案内を実施した。

2) 購入申請等文書でのお知らせ

年度始めに全教職員に対して文書で下記のお知らせを行った。

- ・購入申請方法について
- ・文献複写・現物貸借方法について
- ・情報検索（NACSIS-IR・日経テレコン）利用について

3) 研究室蔵書点検

両学科とも 9 月に各研究室の蔵書点検を行った。

4) 鶴見学舎メディアコーナー

配架図書冊数は 6,379 冊である。毎年 300 冊以上の増加であったが、2007 年度は過去最低の増加冊数となっている。配架スペースもほぼ満杯状態となっており、蔵書構成の見直しが必要となっている。

鶴見図書増加冊数

過去累積	5,176
2004年度	234
2005年度	359
2006年度	384
2007年度	226
合計	6,379

*** 決算報告書 ***

2 . 図書予算決算報告

寄贈図書を含まない 2007 年度の受入資料数は、3,173 冊 7,199,968 円で、学生一人当たりになると約 11.05 冊 24,039 円になる。

図書予算は、2005 年度から同額であるが、学生数の減少により 2006 年度に比べ学生一人当たりの冊数が約 1 冊増加し、11.05 冊となった。また、一人当たりの金額も 24,039 円と 4,000 円近く増加している。

研究室予算では、鶴見学舎の研究室では、ほぼ全室使われているが城東学舎は半数にも満たない。

図書館での選書冊数は、毎年多少の変動はあるものの、例年通り約 7 割から 8 割を占めている。

3 . 蔵書冊数

96,757 冊（2008 年 3 月 31 日現在）

科目名	執行額				
	冊数	金額			
初等教育	302	1,024,495			
人間環境	200	463,633			
参考図書	157	1,383,929			
図書館	2,310	3,839,790			
図書館同和	7	13,704			
小計	2,976	6,725,551			
入試部	1	8,978			
教務課			中嶋研	12	35,855
学生課			西野研		
同和教育	1	4,200	馬場研		
情報教育	9	19,540	平田研		
卒業研究	16	30,500	藤本研	15	28,318
児童教育研究所			宮崎研		
環境総合研究所	4	6,388	吉田研		
			吉中研		
アラン研	3	37,422			
飯田研	37	56,426	足高研		
今道研			足立研	16	31,919
岩井研	4	12,455	市川研	18	42,901
奥田研			上田研	6	12,473
木村研			佐久研	7	32,582
高坂研			鈴木研	6	10,329
佐嶋研	6	10,059	高井研	14	47,655
芝研			田中研	10	21,566
種谷研					
長尾研	12	24,851	合計	3,173	7,199,968

<学生一人当たり購入冊数/11.05冊 金額/24,039円>

4. 年間受入資料数

分類番号	一般図書	参考図書	紙芝居	楽譜	マンガ	推薦図書	カセット	C D	ビデオ	DVD	CD-ROM	合計
総記	132	17	0	0	0	0	0	0	3	0	0	152
000	345,436	153,099	0	0	0	0	0	0	99,225	0	0	597,760
哲学	274	6	0	0	1	0	0	21	0	0	0	302
100	537,549	64,521	0	0	1,134	0	0	47,631	0	0	0	650,835
歴史	242	21	0	0	1	0	0	0	0	1	0	265
200	449,587	291,334	0	0	1,259	0	0	0	0	3,969	0	746,149
社会科学	991	33	0	0	3	0	0	1	0	5	0	1,033
300	1,627,210	210,974	0	0	4,016	0	0	5,399	0	19,067	0	1,866,666
自然科学	382	26	0	0	2	2	0	0	0	6	0	418
400	698,858	150,488	0	0	2,457	2,834	0	0	0	7,088	0	861,725
技術	254	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	260
500	367,838	61,488	0	0	0	0	0	0	0	0	0	429,326
産業	94	17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	111
600	136,339	170,122	0	0	0	0	0	0	0	0	0	306,461
芸術	355	0	0	32	24	0	0	44	1	64	0	520
700	637,959	0	0	73,916	17,459	0	0	79,363	18,900	401,299	0	1,228,896
言語	109	30	0	0	0	3	0	8	0	0	2	152
800	184,291	152,336	0	0	0	5,007	0	17,400	0	0	6,426	365,460
文学	252	13	25	0	0	0	0	0	0	1	0	291
900	420,409	109,809	36,288	0	0	0	0	0	0	500	0	567,006
合計	3,085	169	25	32	31	5	0	74	4	77	2	3,504
	5,405,476	1,364,171	36,288	73,916	26,325	7,841	0	149,793	118,125	431,923	6,426	7,620,284

(上段：冊数、下段：金額) 寄贈図書を含む

和洋別受入数

	購入		寄贈		その他		合計	
	冊数	金額	冊数	金額	冊数	金額	冊数	金額
和書	3,120	7,011,362	54	64,834	271	348,562	3,445	7,424,758
洋書	53	188,606	6	6,920	0	0	59	195,526
合計	3,173	7,199,968	60	71,754	271	348,562	3,504	7,620,284

年間受入資料数は、3,504冊 7,620,284円で一冊平均2,175円であり、2006年度とほぼ変化は無い。洋書の増加冊数もほぼ変化は無い。ただし、2006年度の洋書は楽譜が中心であったが2007年度は文学・DVD・その他一般書などと多岐にわたっている。

5. 貸出冊数

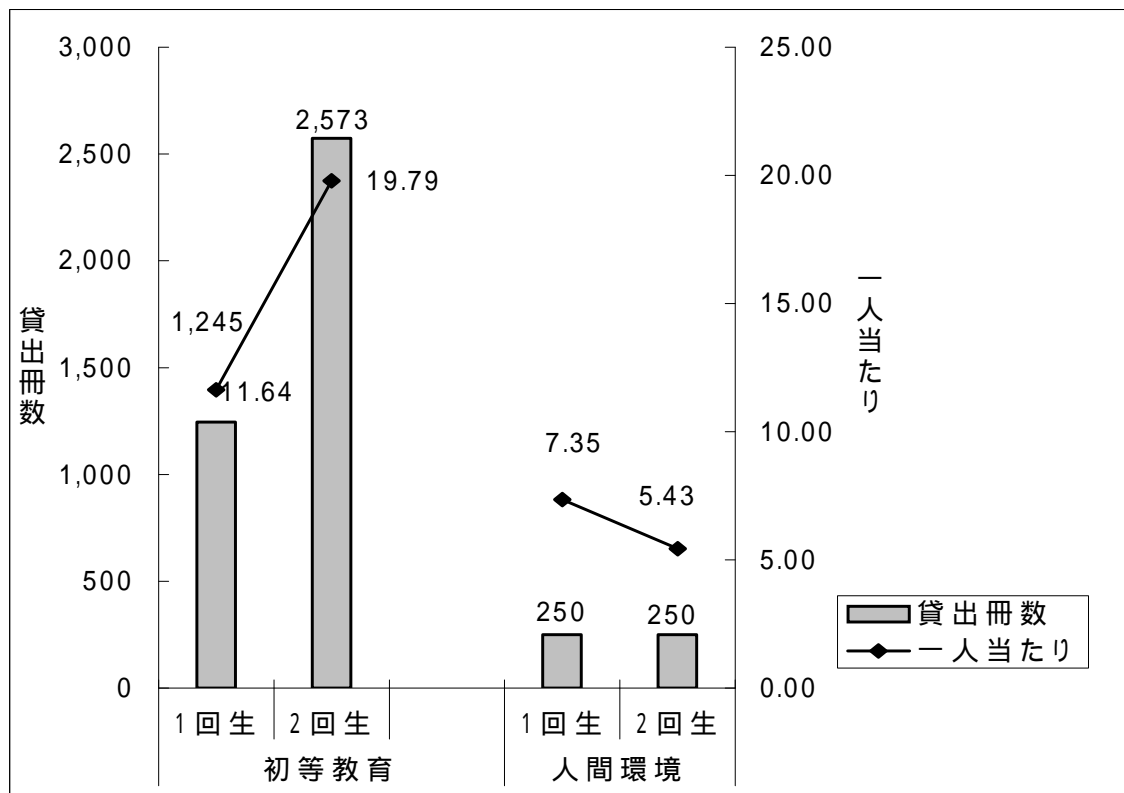
貸出冊数及び一人当たりの貸出数（過去5年間）

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
対象人数（人）	387	394	386	359	317
貸出冊数（冊）	4,143	5,870	5,045	4,534	4,573
1人当たり貸出冊数（冊）	10.71	14.88	13.07	12.62	14.43
初教1人当たり	11.91	17.47	13.50	15.46	17.16
人環1人当たり	8.22	7.96	7.36	5.22	6.34

資料別貸出数（過去5年間）

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
図書	3,302	4,932	4,194	4,095	3,822
A V資料	841	938	851	723	751
合計	4,143	5,870	5,045	4,818	4,573

学科・学年別貸出数



初等教育学科学年別統計

学年	0分類	1分類	2分類	3分類	幼児教育	4分類	5分類	6分類	7分類	CD類	8分類	9分類	絵本	分類無	合計
1回生	1	32	3	445	214	31	54	6	436	233	8	227	119	2	1,245
2回生	0	47	30	941	682	133	127	8	501	290	32	747	629	7	2,573

*幼児教育（376.1-）は3分類の冊数に含まれる。

*CD類は7分類の冊数に含まれる。

*絵本は9分類の冊数に含まれる。

人間環境学科学年別統計

学年	0分類	1分類	2分類	3分類	4分類	5分類	6分類	7分類	CD類	8分類	9分類	分類無	合計
1回生	0	11	3	29	3	0	1	160	121	0	43	0	250
2回生	0	19	2	43	69	2	12	44	42	0	59	0	250

鶴見学舎メディアコーナーの年間貸出冊数

初教1	初教2	人環1	人環2	合計
2	8	9	70	89

まず、初等教育学科は例年のことではあるが、1回生の貸出冊数は2回生の半分程度である。分野的には絵本・幼児教育関係等、教育実習・保育士コース等の貸出が多く、特に2回生の絵本の利用率が高いことが分かる。1回生では、9分類のほぼ半分、2回生ではその8割以上が絵本で占めている。また、3分類の幼児教育関連資料が1回生はほぼ半分、また、2回生は7割以上を占めている。

人間環境学科1回生では、CD類が貸出総数の半数を占めている。2回生では、授業関連の3・4・6分類が多くなっている。

鶴見メディアコーナーでの貸出冊数を見ると、6,000冊以上の学科関連を中心とした蔵書があるにもかかわらず貸出総計が100冊以下であり、また、1回生は9冊のみとほとんど利用されていない。

6.まとめ

初等教育学科では、毎年、学生数が減少傾向であるが、貸出冊数は一定の水準を保っている。

内容的には、幼稚園・保育士・教員の各資格取得に関するものであり、また、その実習用の資料として必要なものである。

鶴見学舎メディアコーナーの貸出冊数は、2005年度160冊、2006年度124冊であり、また、人間環境学科1回生と2回生の貸出冊数の差はそれほど無かった。しかし、2007年度は89冊のみと過去最低となり、1回生は9冊のみとこれも過去最低となっている。毎年、200～300冊程度蔵書数が増加している中、この貸出冊数では存続の意義が問われかねない事態である。

今後も、いかに学生に有効な資料を構成・提供していくか、また、教員との連携をしていくかが課題である。

．高等部活動報告・統計

1．活動報告

1) オリエンテーション

オリエンテーション期間中に外部生を対象に50分を用い、1グループ10数名に1人の館員がつき、館内ツアーと図書館ガイドブックによる利用案内を行った。

2) 教科との連携

- ・2年生の総合学習において、修学旅行地の沖縄に関する資料を収集・展示し、調べ学習に供した。
- ・2・3年生の保健体育科の授業において調べ学習が行われ、2年生は「生活習慣病」について学習した。
- ・1～3年生の国語科、2・3年生の家庭科、美術の授業において調べ学習が行われた。

3) 図書委員会活動

高校図書委員会は各クラスより2名の委員が選出され、計40名で組織されている。指導の先生のもと、活動を行っている。

『ライブラリーニュース』の発行

2007年度は2回、1・2学期に発行した。内容は図書委員が推薦する本の紹介である。担当の図書委員が原稿を書き、編集し、全教職員・生徒に配布した。

選書

担当クラスの図書委員がクラス全員に購入希望図書を調査し、所蔵の重複調査・出版情報の検索を行い購入申請を行っている。

購入した図書はリストを作成し、「購入図書のお知らせ」として各クラスに掲示した。

灘中・高等学校図書委員会と交流会を持ち、意見交換などを通して有意義な時を過ごした。

作家橋本紡氏の著作にタイトルをつけ、表紙を作成するという企画に参加し、有志がこの編集に携わった。

- #### 4) 先生よりインターネット犯罪や携帯電話被害等に関する資料の依頼があり、リストを作成し提供した。

5) 広報活動

広報紙『らい ぶらり』を毎月発行し、全生徒・全教職員に配布し、図書館利用や貸出の促進を図った。また、『図書館ニュース(先生方へ)』を3回発行し全教職員に配布した。

2. 図書予算決算報告

科目名	冊数	金額
高校図書	468	974,867
図書館	592	757,228
同和教育	4	10,394
リクエスト	230	225,094
視聴覚リクエスト	94	232,335
合計	1,388	2,199,918

一人当たりの購入数 / 2.11 冊 金額 / 3,343 円

購入資料数(寄贈資料を除く)は 1,388 冊、2,199,918 円である。一人当たりの購入数は 2.11 冊、3,343 円であり、2006 年度より若干増加している。

2007 年度の先生方による購入申請(高校図書)冊数は 34%で 2006 年度より 2%の増加となっている。これからも選書環境を整え、先生方に積極的な購入申請を働きかけていきたい。

3. 蔵書冊数

47,907 冊(2008 年 3 月 31 日現在)

4. 年間受入資料数

分類番号	一般図書	参考図書	絵本	紙芝居	楽譜	マンガ	カセット	C D	ビデオ	DVD	CD-ROM	合計
総記	17	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
000	26,773	13,020	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39,793
哲学	116	1	0	0	0	0	0	4	0	0	0	121
100	159,749	1,097	0	0	0	0	0	9,704	0	0	0	170,550
歴史	144	3	0	0	0	4	0	0	0	0	0	151
200	280,553	11,340	0	0	0	5,604	0	0	0	0	0	297,497
社会科学	161	5	0	0	0	0	0	0	1	4	0	171
300	263,627	67,320	0	0	0	0	0	0	1,000	79,380	0	411,327
自然科学	68	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	70
400	91,278	0	0	0	0	0	0	0	16,120	0	0	107,398
技術	38	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	38
500	43,263	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	43,263
産業	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
600	32,039	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32,039
芸術	105	0	0	0	17	13	0	98	0	2	0	235
700	147,783	0	0	0	23,380	7,869	0	241,921	0	9,000	0	429,953
言語	106	1	0	0	0	0	0	6	0	0	0	113
800	140,274	1,701	0	0	0	0	0	10,917	0	0	0	152,892
文学	514	2	61	0	0	1	0	5	0	0	0	583
900	613,190	34,020	32,797	0	0	898	0	13,230	0	0	0	694,135
合計	1,291	15	61	0	17	18	0	113	3	6	0	1,524
	1,798,529	128,498	32,797	0	23,380	14,371	0	275,772	17,120	88,380	0	2,378,847

(上段：冊数、下段：金額) 寄贈図書を含む

年間受入資料数は、1,524 冊で 1 冊あたり平均 1,561 円である。

受入資料の約 85%が一般図書である。その内訳を分類別で見ると、文学が 40%を占めている。哲学・歴史・社会科学が約 10%で並び、芸術が 8%で続いている。文学には研究書・文庫本・小説などが含まれる。哲学はキリスト教関係の図書が多い。A V 資料は約 8%で、ほとんどが音楽関係の C D であり、購入希望によるものが多い。映像資料はビデオに代わり D V D の購入

が増えている。絵本も4%の購入があり外国の絵本であった。

よりよい資料提供を行うために、蔵書構成に留意し購入を図っていきたい。

5. 貸出冊数

貸出冊数及び一人当たりの貸出数（過去5年間）

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
対象人数（人）	1,004	897	801	724	658
貸出冊数（冊）	23,728	19,620	13,606	12,277	11,437
1人当たり貸出冊数（冊）	23.63	21.87	16.99	16.96	17.38

分類別貸出冊数

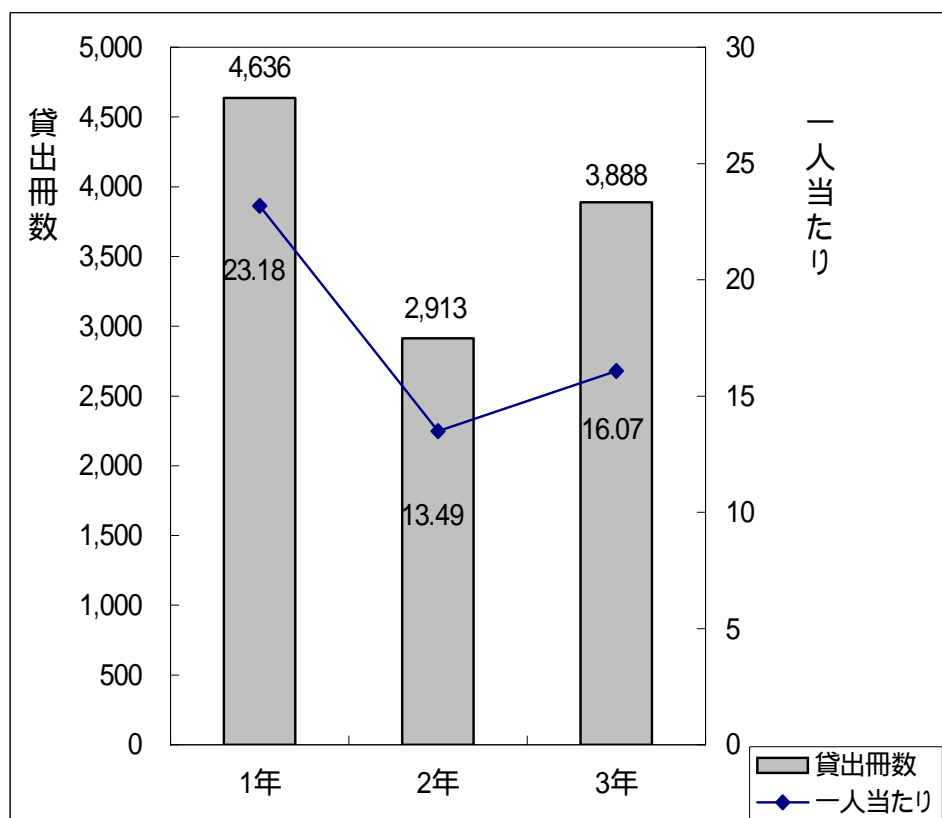
総記（000）	哲学(100)	歴史(200)	社会科学(300)	自然科学(400)
24	192	561	343	245

技術(500)	産業(600)	芸術(700)	言語(800)	文学(900)
400	48	3,771	457	5,355

資料別貸出数（過去5年間）

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
図書	16,462	14,166	10,623	9,301	9,294
A V資料	7,266	5,454	2,983	2,976	2,143
合計	23,728	19,620	13,606	12,277	11,437

学年別貸出数



一人当たりの貸出冊数は、2005年度以降減少傾向にあり、2007年度は平均17冊である。中でも2年生の貸出数が少なく気になるところである。

貸出数を資料別で見ると、図書が約81%、AV資料が約19%である。2006年度より図書が5%増加し、その分AV資料が減少している。分類別では、文学が47%と高く、続いて芸術が33%であり、両分野で80%と大部分を占めている。貸出内容を見ると、例年同様、文学においては小説・文庫本・学習参考書が多く、芸術においては音楽関係のCDが圧倒的で、購入希望によるものが多い。

生徒のニーズを把握し、求める資料の提供や広報活動に努め、貸出を伸ばしていきたい。

6.まとめ。

「自らの問題解決能力」の育成のためには、図書館を利用した授業が必要である。若干ではあるが調べ学習が増えていることは喜ばしいことである。調べ学習の回数は国語科20回、保健体育科10回、美術8回、家庭科4回であった。しかし、生徒の学習資料の貸出は少ない。課題の提出や授業での図書の紹介により、学習資料の貸出の増加を願うものである。

先生方からの購入申請は選書の分野も広がっているものの、まだ少数の先生の申請に留まっている。授業に関する資料は先生方による選書が何よりも必要である。図書館に所蔵されている資料を把握していただき、不足している資料や生徒に薦める資料の積極的な選書をお願いしたい。図書館においても授業内容の把握に努め、資料の充実を図っていきたい。また、先生方との連携のもと、利用される図書館をめざし図書館活動に取り組んでいきたい。

． 中等部活動報告・統計

1．活動報告

1) オリエンテーション

4月12・13日に1年生全員を対象に1クラスを8～9名のグループに分け、図書館ガイドブックに基づき50分間の利用案内と館内ツアーを行った。

2) 教科との連携

図書館活動方針の活動重点項目に、「図書館の活用」として授業との連携の推進、図書館を使った授業実践例の紹介を掲げていたが、残念ながら活用されることはなかった。

2008年度も引き続き先生方一人一人への働きかけを試みたい。

3) 広報活動

中学生の利用が増えることを願って広報誌『らい ぶらり』を毎月発行し生徒全員に配布している。配布すると直ちに「この本どこにある?」「お母さんがこの本読みたいって」などの反響が必ずあるが、利用拡大につながっていないようである。

また、教員への広報誌『図書館ニュース(先生方へ)』を学期に1回配布し、購入申請方法・予算残高のお知らせや図書館活動などを紹介した。

4) 資料の別置

「修学旅行」関連資料(5-6月)を2階カウンター横に別置した。

5) その他

中学生は総退出時間が設定されており、それ以後に居残りを希望する生徒は、カウンターの「図書館居残り届」に必要事項を記入することで放課後の利用が認められている。

2007年度の居残り届提出者数は延べ1,874名と、放課後の図書館利用が年々増加している。しかしながら貸出数は大きく減少している。これは、図書館でインターネットだけ利用する生徒が増えているからだと思われる。

2．図書予算決算報告

科目名	冊数	金額
中学校図書	87	229,190
図書館	342	516,668
同和教育	0	0
リクエスト	71	53,858
合計	500	799,716

一人当たり購入数約1.7/冊 金額約2,767/円

図書館での選書が全体購入冊数の約68%を占めており、2006年度の約75%より減少している。先生方からの購入申請(中学校図書)図書冊数は、2006年度の約5.5%から約17%と増加している。

授業研究用資料や生徒の教養を高める資料の図書選定には、今後も先生方に協力していただくよう働きかけをしていかなければならない。

生徒からの購入希望冊数（リクエスト）は2006年度の約20%から約14%と減少しており、生徒の貸出数の減少に比例して購入希望も少なくなったと考えられる。

3. 蔵書冊数

12,650冊（2008年3月31日現在）

4. 年間受入資料数

分類番号	一般図書	参考図書	絵本	紙芝居	楽譜	マンガ	カセット	C D	ビデオ	D V D	CD-ROM	合計
総記 0 0 0	6 5,316	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6 5,316
哲学 1 0 0	20 29,294	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20 29,294
歴史 2 0 0	23 47,232	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	23 47,232
社会科学 3 0 0	67 126,243	1 900	0	0	0	1 718	0	0	0	8 120,960	0	77 248,821
自然科学 4 0 0	46 72,944	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46 72,944
技術 5 0 0	17 25,257	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17 25,257
産業 6 0 0	21 30,180	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21 30,180
芸術 7 0 0	31 62,849	0	0	0	4 8,418	0	0	0	0	7 19,748	0	42 91,015
言語 8 0 0	11 9,928	0	0	0	0	0	0	4 5,600	0	0	0	15 15,528
文学 9 0 0	253 248,085	0	1 1,228	0	0	15 12,829	0	0	0	0	0	269 262,142
合計	495 657,328	1 900	1 1,228	0	4 8,418	16 13,547	0	4 5,600	0	15 140,708	0	536 827,729

（上段：冊数、下段：金額）寄贈図書を含む

年間受入資料数は、536冊 827,729円一冊平均1,544円で、受入冊数が増加し一冊の平均単価が減少している。

毎年9分類(文学)に関する受入が最も多くなっているため、2007年度も引き続き全体構成を意識して選書しようと考えていたが、全体の約50%と半数を占める結果になってしまった。選書に際して全体のバランスを今一度考慮するように努めなければならないと考えている。

内容的には生徒の読み物が中心になっている。社会科学のDVDは『こころを育てるカウンセリング：実践技法全8巻』である。

5. 貸出冊数

貸出冊数及び一人当たりの貸出数（過去5年間）

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
対象人数（人）	413	358	328	294	289
貸出冊数（冊）	8,855	5,373	6,255	7,324	5,525
1人当たり貸出冊数(冊)	21.44	15.01	19.07	24.91	19.12

学年別貸出数（過去5年間）

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
1年	1,745	1,382	2,518	3,001	1,784
2年	4,024	1,465	2,033	2,291	1,667
3年	3,345	2,526	1,704	2,032	2,074

学年別一人当たりの貸出数（過去5年間）

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
1年	12.6	13	28.6	28.3	18.2
2年	33.5	10.6	19.4	27	15.6
3年	20	22.2	12.6	19.7	24.7

資料別貸出数（過去5年間）

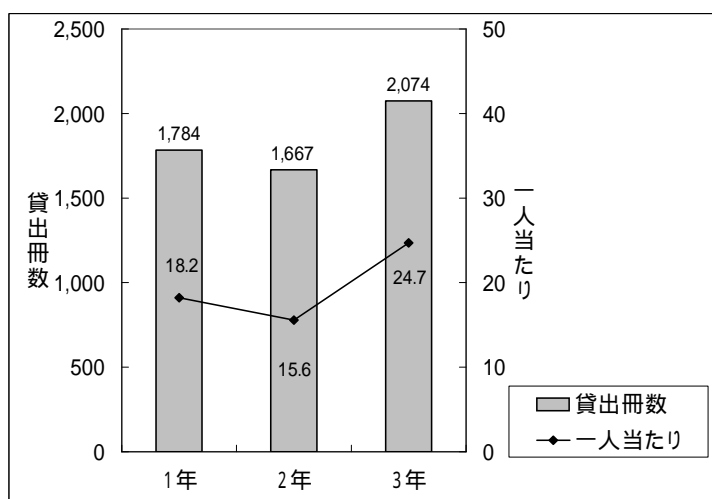
	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
図書	6,542	4,108	5,002	5,961	4,682
A V資料	2,313	1,265	1,253	1,363	843
合計	8,855	5,373	6,255	7,324	5,525

分類別貸出冊数

総記(000)	哲学(100)	歴史(200)	社会科学(300)	自然科学(400)
5	81	76	91	121

技術(500)	産業(600)	芸術(700)	言語(800)	文学(900)
151	39	1,663	167	3,064

学年別貸出数



2007 年度卒業生の 3 年間の利用状況

3 年間で 100 冊以上借りた人	20 人 (84 人中)
3 年間で一番多く借りた人	549 冊
3 年間で 1 冊も借りなかった人	3 人 (84 人中)

1 年間の 1 人当たりの貸出数は 2004 年度までは毎年 10% 以上減少し、その後 2005 年度から増加に転じ一安心していたが、2007 年度は減少してしまった。

分類別貸出冊数を見ると、全体の約 56% が 9 分類 (文学) となっておりいつもながら小説類の利用割合が多く、図書館利用の目的は自由読書のための図書の利用が多いことの現れである。

学年別貸出数を見ると学年が進むにつれ貸出が減少するのが一般的傾向であるが、2 年生の落ち込みが著しい。学年別一人当たりの貸出数の推移を見ると 1 年生のときに一人当たりの貸出数が 28.3 冊あったのが 2 年生になって 15.6 冊まで減少してしまっている。どこに原因があるのかつかみかねている。

6. まとめ

2006 年度は、「図書館離れ」という危機感から、広報誌『らい ぶらり』を全生徒に配布、新着図書館案内『あたらしい本』を月に 1~2 回発行、教員への広報誌『図書館ニュース (中等部版)』を学期に一度配布するなど、広報活動への取り組みが利用増の数字に表れていた。

2007 年度も引き続き広報活動に力を注いだ。「図書館居残り届」の届出者は増加し放課後の利用は増えているように思われるが、貸出数は減少している。昼休みや放課後の利用状況から推察すると、インターネットの利用目的での来館が多くなっているようで、貸出には結びついていないようだ。この図書館でのインターネット利用者を、読書活動に結びつけるような取り組みを考えなければならない。

2008 年度も前年度に引き続き、次の 2 点について努力していきたいと考えている。

< 授業との連携 >

授業を通して図書館を活用し、資料の利用方法や情報検索などの指導を実施して、情報活用能力の育成に努める。

< 読書の楽しさ >

一人でも多くの生徒に読書の楽しさを味わってもらえるように、授業の中や図書館の広報で様々な本を紹介し興味付けしていくよう努力する。

今後も先生方と図書館員が協力し、生徒に対し様々な働きかけを行い、読書活動や図書館利用が活発になるよう努めていかなければならない。是非とも先生方には授業での図書館活用をお願いしたいものである。

・小学校活動報告・統計

1. 活動報告

1) オリエンテーション

2007年度は2～4年生の各クラスでオリエンテーションを最初の「図書の時間」に実施した。繰り返し貸出・返却・利用マナーなどを共通して説明し、2年生ではリクエストの仕方を、4年生から貸出カードが個人管理になるので、その説明を加えている。

10月には4年生対象にコンピュータの検索のオリエンテーションを行った。インターネットを介して検索可能なため、コンピュータの授業時間に協力いただき、小学校の多目的室のコンピュータを使って検索の仕方、画面の見方を説明した。

2) 図書館サービス

レファレンス、授業との連携、読み聞かせ・本の紹介など

前述したオリエンテーション以外に、図書館が担任の依頼を受け実施した読み聞かせや本の紹介などは下記のものがある。

- ・ 4月 毎年恒例の体験学習の広島（5年）や修学旅行の関東（6年）の資料集め
- ・ 6月 3年3クラスで「お話で世界一周」と題して、国の創作話や民話の紹介
- ・ 7月 5年C組で「夏休みにすすめる本」をテーマにしたブックトーク
- ・ 12月 1年3クラスで「冬休みに読むちょっと長めのお話」をテーマにしたブックトーク
- ・ 1月 1年3クラスで民話の読み聞かせか紙芝居

日常的に先生方から単元に関するもの、個人的な調べ物など資料集めの依頼は定着しており、恒例になっているものもある。毎年使われる資料は充実に努めているが、調べ学習させたいテーマが初めての場合には資料が足りないこともあり、せっかくの調べ学習を断念されたケースもある。

リクエストの利用状況 件数 1,870 件

- ・ 総件数の内、約50件は年度内に未処理で2008年度に持ち越した。
- ・ 所蔵していない本のリクエストについては、内容を検討してできるだけ購入して提供するように努めた。2007年度は公共図書館の団体貸出を利用することはなかった。
- ・ 連絡をしても借りに来ない児童がいるので、何のためのリクエストかを周知徹底したい。

3) 「ひまわり文庫」の設置

2001年度から2005年度に在職されていた佐藤早紀（旧姓：東）先生が2007年夏に逝去された。ご遺族の方から早紀先生の闘病日数と同じ53冊の本を寄贈したいとの申し出をいただき、早紀先生の好きだったひまわりにちなんで「ひまわり文庫」として設置した。

4) 絵本書架の購入

新たに絵本書架を購入し、春休み中に大幅に本の配置換えをした。

2. 図書予算決算報告

科目名	冊数	金額
小学校図書	770	999,722
同和教育	0	0
合計	770	999,722

一人当たり購入数 / 1.45 冊 金額 / 1,886 円

3. 蔵書冊数

15,429 冊 (2008 年 3 月 31 日現在)

4. 年間受入資料数

分類番号	一般図書	参考図書	絵本	紙芝居	楽譜	マンガ	カセット	C D	ビデオ	DVD	CD-ROM	合計
総記	9	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
000	17,012	2,552	0	0	0	0	0	0	0	0	0	19,564
哲学	19	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	21
100	16,387	0	2,794	0	0	0	0	0	0	0	0	19,181
歴史	32	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	32
200	62,106	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62,106
社会科学	62	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	62
300	112,827	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	112,827
自然科学	129	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	130
400	225,055	0	1,229	0	0	0	0	0	0	0	0	226,284
技術	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	28
500	52,143	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	52,143
産業	22	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22
600	27,941	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	27,941
芸術	18	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18
700	29,978	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	29,978
言語	11	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
800	17,229	5,030	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22,259
文学	318	0	190	0	0	0	0	0	0	0	0	508
900	286,816	0	228,265	0	0	0	0	0	0	0	0	515,081
合計	648	4	193	0	0	0	0	0	0	0	0	845
	847,494	7,582	232,288	0	0	0	0	0	0	0	0	1,087,364

(上段：冊数、下段：金額) 寄贈図書を含む

年間受入資料冊数は、845 冊 1,087,364 円で一冊平均 1,287 円である。

毎年のことながら 9 分類 (文学) の受入が最も多く、分野別の受入に大きな変化はない。全体のバランスを意識しながら、教科でも使ってもらえるような選書を心がけ、文学以外の資料も利用されるよう働きかけていかなければならない。

6 月中旬に子どもたちにも人気の怖い本に保護者からのクレームがあった。「なぜ、こんな本が学校の図書館にあるのか。このジャンルの本は図書館に置かないでほしい」という要望もあり、小学校・図書館双方の職員会議でそれぞれ話し合いがもたれた。様々な資料を収集し提供するのが図書館で、図書館としてはある特定のジャンルの本を置かない、ということはない。ましてや子どもたちに人気がありよく利用される資料ではなおさらであると図書館会議で確認、それでも内容に問題があることもあるので、個別にその都度検討することを先生方にはお伝え

した。

このような問題は選書に深く関わりのあることで、図書館の蔵書は図書館だけが作っているのではなく先生方も作っているのだという意識をもっといただき、積極的に選書に加わっていただきたい。

5. 貸出冊数

貸出冊数及び一人当たりの貸出数（過去5年間）

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
対象人数（人）	565	547	542	544	530
貸出冊数（冊）	35,970	36,134	35,557	36,443	35,319
1人当たり貸出冊数（冊）	63.66	66.06	65.60	66.99	66.64

分類別貸出冊数

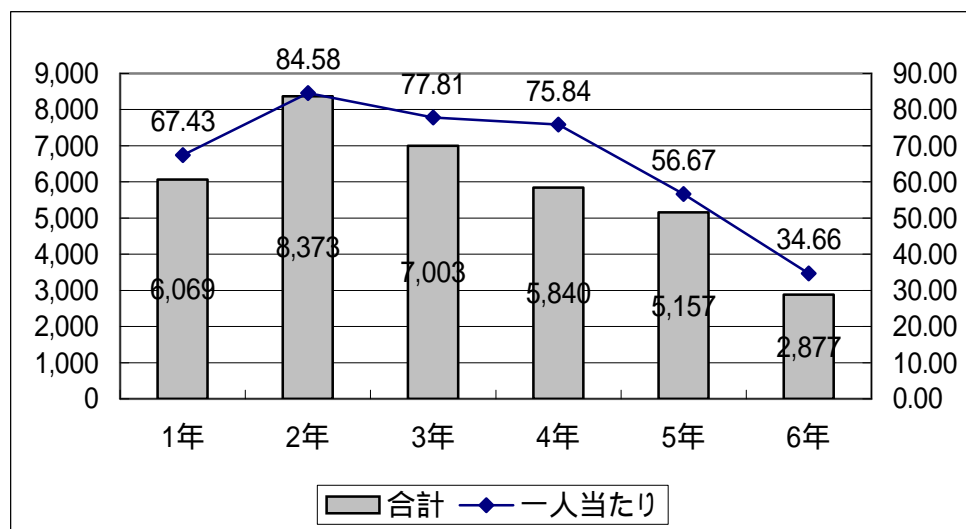
総記（000）	哲学(100)	歴史(200)	社会科学(300)	自然科学(400)
72	534	1,351	974	1,943

技術(500)	産業(600)	芸術(700)	言語(800)	文学(900)
1,218	1,029	1,408	586	26,204

学年別貸出冊数

	貸出冊数	児童数	一人当たり
1年	6,069	90	67.43
2年	8,373	99	84.58
3年	7,003	90	77.81
4年	5,840	77	75.84
5年	5,157	91	56.67
6年	2,877	83	34.66

学年別貸出冊数



カウンターでの貸出手続きでは、よく借りる低・中学年でも上限5冊（長期休暇時は上限8冊）まで借りずに2・3冊しか借りない児童が多い印象で貸出冊数が落ちるかと思っていたが、変化なく安定していた。

貸出資料は74%が9分類（文学）で相変わらず各学年ともシリーズものに人気があり、よく借りられた。教科関連資料の貸出は児童個人が借りるよりもクラス貸出や担任が借りることが多いため、児童の貸出数には反映されていない。マンガやアニメのノバライズ本のほかにも、今年話題になり中高生を中心に流行している携帯小説を読みたいという児童もいたが、学習・教科に関連しない資料は貸し出さないという図書館利用指導の申し合わせに従い貸出しなかった。

6.まとめ

大きな変化として、春休みの大幅な本の配置換えがある。今まで入口から奥まったところにキリスト教の本や勉強に関係する本があったのを、目につくところに並び替えた。この配置換えで教科に関連する本の利用が増えることを期待したい。

また保護者のクレームにより選書のあり方を考えさせられた。図書館の資料収集方針は先述した通りで、ほとんど図書館で選書している現状である。選書は非常に気を使うこともあり先生方と協力して選書し、蔵書構成を検討する仕組みづくりが今後の課題だと思っている。

2007年度は今までよりも図書の時間を図書館利用指導年間計画に沿った内容の時間にし、各学年で辞典・事典・年鑑類の使い方を説明しているクラスがいくつか見受けられた。これらの資料の使い方をその場限りにせず、日ごろ疑問に思ったことや調べ学習につなげていていただきたいし、図書館ではその協力・授業との連携を惜しまない。今後、より指導計画を活かした利用の働きかけをしていきたい。

．幼稚園活動報告・統計

1．活動報告

幼稚園の活動は、幼稚園 2 階にある図書室で、保護者の協力のもとに各クラスから選出された図書委員 6 名×10 クラスの計 60 名により、園児を対象に貸出が行われている。

1) 図書委員会 (保護者委員)

- ・ 2007 年 6 月 4 日 図書委員紹介・活動内容説明・役割分担
- ・ 2008 年 2 月 21 日 反省会

2) 貸出・返却

開室日時 : 毎週木曜日 12:00～14:00 (年間 18 回最終日は返却のみ)

貸出冊数 : 園児 3 冊まで

貸出期間 : 1 週間

貸出等の手続きは図書委員 12 名・役員 3 名グループの輪番制によって行われている。

3) 図書部会 (図書係先生)

- ・ 2007 年 5 月 24 日 第 1 回図書館教育委員会

4) 発行物

- ・ 学院図書館案内 (1 学期始業時・入園時)

毎年年度の初めに、保護者の方々へ学院図書館の利用案内を配布している。

- ・ としょかんつうしん (年 4 回)

保護者を対象に、図書室における園児貸出の様子や、図書館資料の案内、お知らせやお願いなどを中心とした内容で発行している。

- ・ 図書館案内[幼稚園先生版] (年 3 回)

幼稚園教職員を対象に、図書館の到着案内やお知らせなどを中心とした内容で 2007 年度より発行した。

2．図書予算決算報告

科目名	冊数	金額
幼稚園図書	166	170,667
図書館	130	128,503
同和教育	0	0
合計	296	299,170

一人当たり購入数 / 0.84 冊 金額 / 850 円

3. 蔵書冊数

5,318 冊 (2008 年 3 月 31 日現在)

4. 年間受入資料数

分類番号	一般図書	参考図書	絵本	紙芝居	楽譜	マンガ	カセット	C D	ビデオ	DVD	CD-ROM	合計
総記 000	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
哲学 100	1	0	16	0	0	0	0	0	0	0	0	17
	1,323	0	9,702	0	0	0	0	0	0	0	0	11,025
歴史 200	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	1,200	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1,200
社会科学 300	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	12
	17,933	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	17,933
自然科学 400	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16
	16,052	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,052
技術 500	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
	5,558	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5,558
産業 600	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
芸術 700	20	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20
	16,798	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16,798
言語 800	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	4,347	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4,347
文学 900	11	0	223	0	0	0	0	0	0	0	0	234
	9,493	0	236,784	0	0	0	0	0	0	0	0	246,277
合計	73	0	239	0	0	0	0	0	0	0	0	312
	72,704	0	246,486	0	0	0	0	0	0	0	0	319,190

(上段：冊数、下段：金額) 寄贈図書を含む

年間受入資料数は、312 冊 319,190 円で一冊平均 1,023 円である。

受入資料数の約 75% が絵本やよみものであり、小学校低学年レベルの絵本以外の本も選書を行った。2007 年度も夏に一度、図書系の先生と図書の取次店に行って直接選書を行った。

また、消耗図書として各クラスに月刊絵本を毎月購入した。

5. 貸出冊数

貸出冊数及び一人当たりの貸出数 (過去 5 年間)

	2003年度	2004年度	2005年度	2006年度	2007年度
対象人数 (人)	309	328	344	324	352
貸出冊数 (冊)	7,246	8,623	8,433	8,839	12,387
1人当たり貸出冊数 (冊)	23.45	26.29	24.51	27.28	35.19

分野別貸出数 (ラベルの色)

児童文学(赤)	宗教(黄)	学習百科(緑)
9,911	142	2,334

クラス別貸出冊数

園児数	34	35	37	34	36	35	33	35	37	36	352
クラス	ばら	ゆり	のばら	ひまわり	ふじ	ちゅうり つば	たんぼぼ	さくら	すみれ	きく	合計
赤	1,018	920	1,025	798	1,010	915	1,048	1,033	1,129	1,015	9,911
黄	10	13	14	13	21	10	18	0	29	14	142
緑	127	332	300	262	240	227	246	161	193	246	2,334
冊数	1,155	1,265	1,339	1,073	1,271	1,152	1,312	1,194	1,351	1,275	12,387
人数	496	498	511	474	514	482	505	500	522	475	4,977

2007年度は過去最高の貸出冊数であり、園児一人当たり年間35冊もの資料を借りている。原因として2007年度は例年度より開室日（貸出日）数が3～4日多かった為だと思われるが、貸出利用者の総のべ人数は4,977人であり、これは1回の開室につき平均約293名の利用となり、2006年度より1日平均30人増加している事になる。

年度の途中から満3歳児が入園し、その都度図書貸出にも対応した。

また、2007年度も夏休み期間中と冬休み期間中にも貸出を行い、蔵書点検を6月の貸出前に行った。

6.まとめ

図書貸出については2006年度の反省会で要望が多くあがっていた図書係マニュアルが作成され、2007年度は比較的作業がスムーズに行われた。

貸出面において、年間10数名の満3歳児が年度途中に入園しており、在園児と同様の条件で随時対応している。

設備面では、返却時に「人気の本コーナー」の収容・配架に限界がみられるので、その都度机の上に展示したりなどの対策を講じた。また、満3歳児用の図書も随時増やしていきたい。

督促面では、1回目の返却忘れ時には冊数のみを書いた督促状を渡し、2回目以降は書名を記入することによって、返却がスムーズにいくようになった。また、園児個人に対してその都度声掛けを行っている。

蔵書管理面において、2007年度も夏休み貸出に対応するべく、6月の年度貸出開始以前に蔵書点検を行った。

学院図書館の保護者利用も、幼稚園保護者だけで2007年度は144名の利用登録がなされており、卒園後も利用される方が年々増えている。今後も「としょかんつうしん」などの広報で利用案内を続けていきたい。

． 図書館利用アンケート結果

図書館サービスが利用者にどのように評価されているか、図書館に対する要望は何かを知るために、中学生・高校生・短大生を対象に 2004 年度より毎年行っている調査である。

調査項目は、読書量や図書館の利用目的、予約や購入希望の認知度、図書館への要望など多岐にわたる。 アンケート結果は今後の図書館活動を見直すための参考資料とする。

1 . 調査対象

	生徒数(人)	回答数(人)	回答率(%)
短大(初教)	235	204	86.8
短大(人環)	77	68	88.3
高校	658	581	88.3
中学	289	277	95.8

2 . 1ヶ月の読書量(漫画・雑誌を除く)

	a.0冊	b.5冊まで	c.10冊まで	d.20冊まで	e.21冊以上	無記入
初教	52.9	44.1	2.0	1.0	0.0	0.0
人環	64.7	32.4	1.5	1.5	0.0	0.0
高校	47.0	45.1	4.8	1.5	1.2	0.3
中学	32.1	53.1	9.7	2.9	1.8	0.4

(単位：%)

短大初等教育学科(以下「初教」)の学生の半数が「0冊」と回答しているのは、利用する資料の多くが実習に役立つ実用書で本を読んでいるという実感がないからだと思われる。短大人間環境学科(以下「人環」)の学生の未読者は年々増加している。

3 . 図書館利用率

1) 公共図書館の利用

	a.毎日	b.1週間に3回以上	c.1週間に1~2回	d.月に2~3回	e.めったに行かない	f.全然行かない	無記入
初教	0.0	0.5	0.5	13.2	56.4	29.4	0.0
人環	0.0	0.0	2.9	4.4	29.4	63.2	0.0
高校	0.2	0.0	2.1	6.7	39.1	51.8	0.2
中学	0.4	1.1	1.1	7.9	33.6	56.0	0.0

(単位：%)

公共図書館の利用には特に変化がみられない。

2) 大阪信愛女学院図書館の利用

	a.毎日	b.1週間に3回以上	c.1週間に1~2回	d.月に2~3回	e.めったに行かない	f.全然行かない	無記入
初教	0.0	0.5	4.9	36.8	49.0	8.3	0.5
人環	1.5	0.0	1.5	7.4	27.9	61.8	0.0
高校	1.2	5.0	11.9	28.1	36.0	17.6	0.3
中学	3.6	7.9	15.9	28.2	33.9	10.5	0.0

(単位：%)

中学生については約56%の生徒が「月に2～3回」以上と回答し、高校生についても昨年度より「月2～3回」以上との回答が10%程度増加している。来館者が増加しているのは嬉しいことだが、残念ながら貸出数が減少している。図書館の利用目的がインターネットの利用や、勉強のためとの回答も多いことから、来館が貸出に結びついていない現状がある。

短大生の利用は増減しておらず、初教の学生の実習準備の利用は多いように思われる。

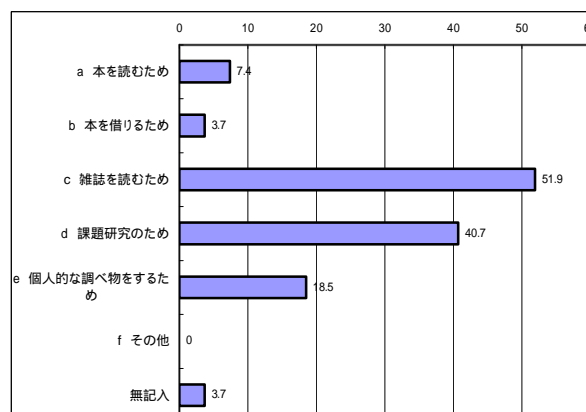
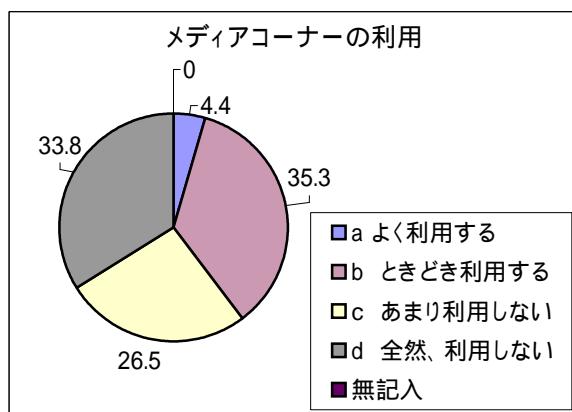
「めったに行かない」「全然行かない」理由を選択回答してもらった結果は下記のとおりである。「普段は図書館へ行かないが、定期試験時には利用することもある」の回答は意外にも初教の学生に多かった。定期試験というよりも実習に置き換えているのかもしれない。

相変わらず「なんとなく」が各校とも多く、中高生はクラブや稽古事、塾などで図書館へ行く時間がないことをあげている。

	初教	人環	高校	中学
読みたい本がない	12.0	16.4	11.9	32.5
読みたい雑誌がない	1.7	3.3	4.5	13.0
聴きたいCDがない	2.6	1.6	5.1	15.4
観たいビデオやDVDがない	1.7	0.0	2.3	9.8
本の探し方がわからない	0.9	0.0	0.3	3.3
図書館の先生の対応が悪い	0.9	4.9	0.6	5.7
図書館の雰囲気が嫌	4.3	3.3	1.6	6.5
貸出や返却などの手続きが面倒	17.1	6.6	11.6	17.9
本が嫌い	8.5	9.8	10.6	11.4
なんとなく	38.5	16.4	37.0	35.8
クラブや稽古事、塾などで図書館へ行く時間がない	-	-	37.0	40.7
普段は図書館へ行かないが、定期試験時には利用することもある	48.7	1.6	27.7	21.1
メディアコーナーで十分	-	1.6	-	-
鶴見学舎から遠い	-	72.1	-	-
その他	15.4	4.9	9.6	6.5
無記入	2.6	0.0	0.3	0.8

(単位：%)

3) メディアコーナーの利用(人環対象)



鶴見学舎にあるメディアコーナーの利用を尋ねた結果である。資料を利用するというよりも、メディアコーナーに置いてあるパソコンを利用したり、「雑誌を読む」目的が最も多く、課題研究

や調べ物での利用は減少したままである。

4. 利用目的（大阪信愛女学院図書館を「月2～3回」以上利用すると回答した学生・生徒対象）

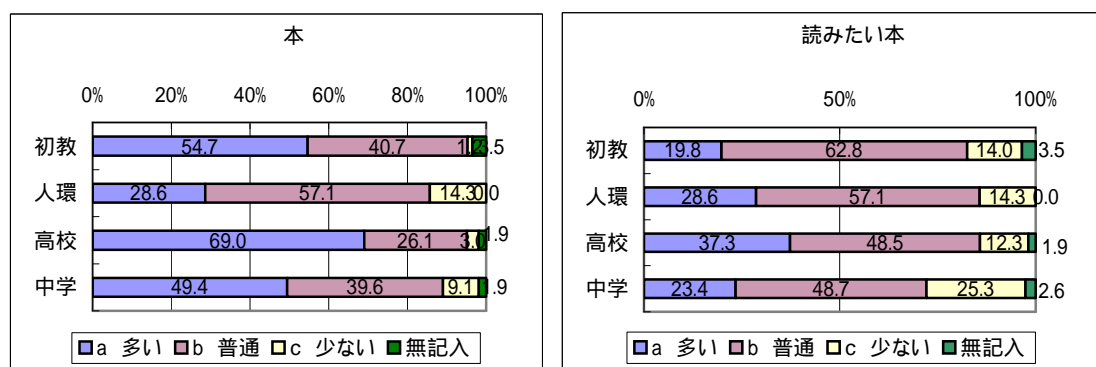
	初教	人環	高校	中学
図書館の本を読むため	27.9	28.6	34.3	39.0
図書館の本を借りるため	73.3	85.7	66.8	64.3
CDを借りるため	31.4	28.6	31.7	27.3
ビデオ・DVDを観るため	17.4	14.3	32.8	27.9
新聞・雑誌を読むため	9.3	28.6	31.0	36.4
課題研究のため	64.0	0.0	-	-
勉強のため	-	-	47.0	26.6
個人的な調べ物をするため	30.2	0.0	16.8	11.7
宿題のため	-	-	14.6	8.4
友達との待ち合わせ	1.2	0.0	7.5	6.5
インターネットを利用するため	4.7	0.0	6.0	37.0
その他	1.2	14.3	1.5	5.2
無記入	2.3	0.0	1.9	1.3

（単位：％）

各校とも「図書館の本を借りるため」が最も多く、7割前後を占めている。初教の学生では「課題研究のため」の回答が多いのは実習準備が必要だからであろう。高校生では次いで「勉強のため」で、中学生では「図書館の本を読むため」だった。「インターネットを利用するため」と回答した中学生も多く、インターネット利用統計からも昼休み・放課後と毎日のように利用している生徒もあり、昨年度より10%も増加している。

5. 利用で感じていること

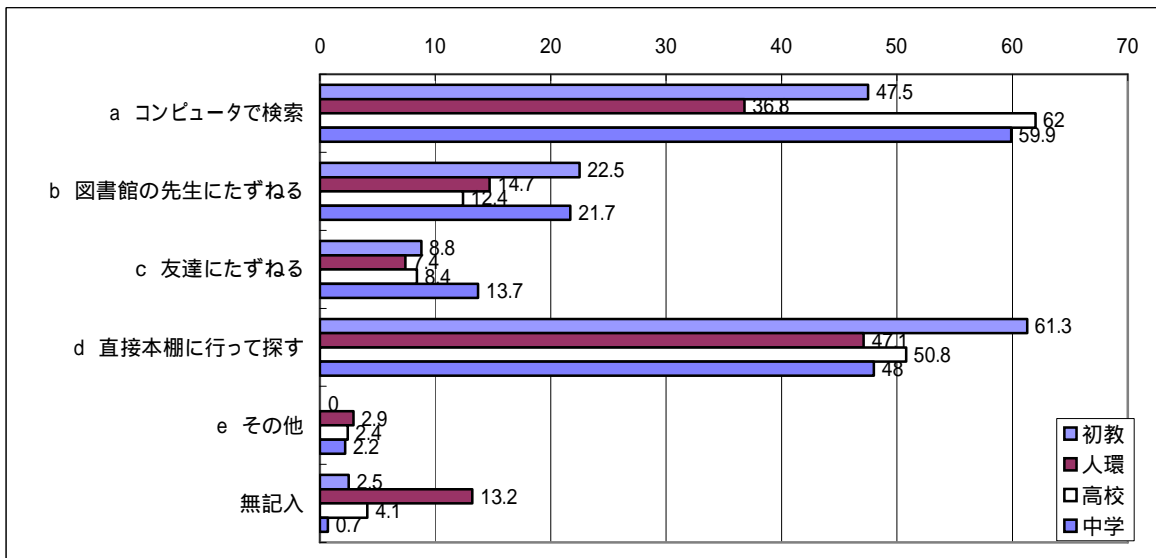
（大阪信愛女学院図書館を「月2～3回」以上利用すると回答した学生・生徒対象）



本の数は初教・高校で95%、人環で85%、中学で89%が「多い」と回答しているが、読みたい本となるとその数は半減してしまう。それは中高生・短大生の読みたい本を本当に所蔵していないことも考えられるが、図書館にあって貸出中だったり、十分に探さきれていなくて図書館にはないと判断してしまっていることがこの回答の要因と考えられる。予約制度、購入希望制度を利用するように呼びかけていきたい。

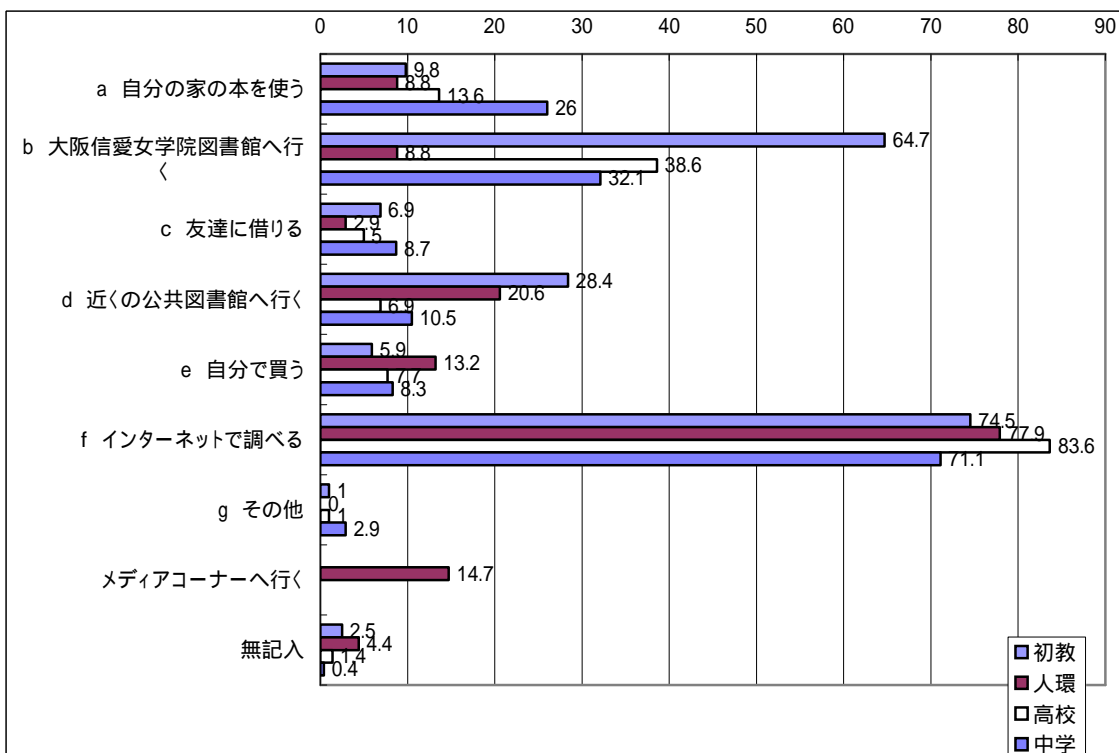
6. 資料の入手方法

1) 図書館で読みたい本を探すとき



短大生では目的がはっきりしているからか「直接本棚に行って探す」という回答多く、昨年度よりも「図書館の先生にたずねる」との回答が10%増加した。短時間で目的の資料を探すためだと思われる。「コンピュータで検索する」にしても「直接本棚に行って探す」にしてもコツのようなものがあるので探しだせていないこともある。そのようなときに相談しやすい対応を心がけたい。

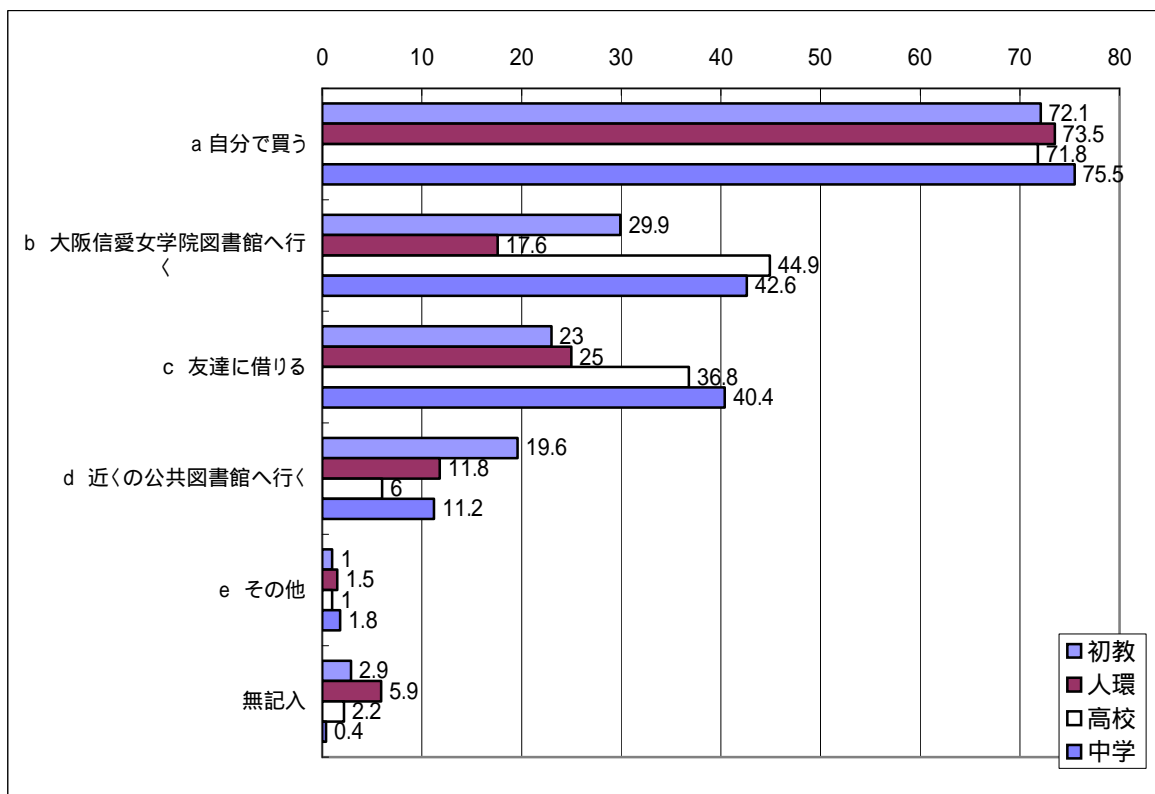
2) 調べ物をしなければならないとき



調べ物をする場合は圧倒的に「インターネットで調べる」という回答結果で、毎年変わらない傾向にある。短大生の大阪信愛女学院図書館、公共図書館の利用傾向も昨年同様である。おそら

く初教の学生にとって調べ物 = 実習で、学院図書館には実習に必要な資料が充実しているためと考えられる。

3) 読みたい本があったとき



「自分で買う」という回答が7割前後、高校生「大阪信愛女学院図書館へ行く」という回答が若干増加した。予約制度や購入希望制度の認知もされており、どんな本やCDがあるのか毎月新着情報を図書館だより掲載し配布してきたからの増加だと思われる。

7. 「予約」「購入希望」制度の認知

	a. 知っている			b. 知らない			無記入					
	初教	人環	高校	中学	初教	人環	高校	中学				
予約	67.2	63.2	95.4	93.9	30.9	32.4	3.4	6.1	2.0	4.4	1.2	0.0
購入希望	52.9	55.9	94.5	90.6	42.6	39.7	3.3	9.0	4.4	4.4	2.2	0.4

(いずれも単位：%)

「予約」「購入希望」ともに中高生の認知度は高く、まだまだではあるが短大生でも認知されてきた。利用の有無を尋ねたところ「それほど必要としていない」が最も多く、中には制度としては知っているが具体的な利用の仕方がよくわからない、といった説明不足の指摘もあった。今後は利用されるように周知徹底していきたい。

8. 広報

広報に関して主に図書館で配布している新着図書案内「あたらしい本」、中高生対象に全員配布している図書館だより「らい ぶらり」、図書館前掲示板、学生対象に短大校舎掲示板をそれぞれの程度見ているかを尋ねた。

1) 新着案内「あたらしい本」

	a. よく見ている	b. たまに見る	c. 見たことがない	無記入
初教	4.4	48.5	44.1	2.9
人環	1.5	26.5	66.2	5.9
高校	10.0	52.0	37.0	1.4
中学	13.0	57.4	28.9	0.7

(単位は%)

新着案内は図書館玄関やカウンター周りにおいてあり、自由に持ち帰ることができる。中高生には配布している図書館だよりにより新着資料を掲載しているが、この新着案内はより発行頻度も多く速報版的な位置づけで、掲載内容も短大生や保護者を意識したものになっている。

2) 図書館だより「らい ぶらり」

	a. すみずみ読む	b. 一通り目を通す	c. ほとんど読まない	無記入
高校	12.0	70.0	16.0	1.2
中学	13.7	68.2	17.7	0.4

(単位は%)

図書館からのお知らせや新着案内、利用の様子など気になったことを掲載している。今後も利用につながるよう内容の充実を図り、定着させていきたい。

3) 図書館前掲示板

	a. よく見ている	b. たまに見る	c. 見たことがない	無記入
初教	4.4	40.7	52.0	2.9
人環	1.5	14.7	77.9	5.9
高校	5.2	60.0	33.0	1.7
中学	10.5	63.5	24.2	1.8

(単位は%)

図書館前の掲示板は新着資料の案内や各種お知らせ、ポスターなどを掲示している。

4) 短大校舎掲示板(短大生対象)

	a. よく見ている	b. たまに見る	c. 見たことがない	無記入
初教	17.6	48.5	30.4	3.4
人環	1.5	33.8	58.8	5.9

(単位は%)

掲示板の中の図書館についての回答をしている学生と掲示板全体のつもりで回答している学生がいると思われる。もし掲示板全体として回答しているのであれば、問題である。

9. よく読む雑誌や図書館に入れて欲しい雑誌（上位5誌）

	初教	人環	高校	中学
1	non・no	ViVi	non・no	SEVENTEEN
2	Spy Girl	KERA soup Myojo	Popteen	Popteen
3	ViVi soup	Zipper Pinky	ViVi	ポポロ
4	CanCam	-	Pinky	Myojo
5	JJ PS	-	SEVENTEEN	Poteto

ほとんどがファッション・芸能に関する雑誌であった。

10.好きな作家（上位5人）

	初教	人環	高校	中学
1	山田悠介	伊坂幸太郎 江戸川乱歩 乙一 山田悠介	東野圭吾	あさのあつこ 乙一
2	赤川次郎 さくらももこ 司馬遼太郎 東野圭吾 星新一 よしもとばなな	-	乙一	赤川次郎 山田悠介
3	J.K.ローリング 浅田次郎 江國香織 宮部みゆき	-	山田悠介	美嘉
4	-	-	あさのあつこ	Yoshi
5	-	-	森絵都	太宰治 田村裕 東野圭吾

短大生の回答が非常に少なく、複数回答があったものだけをあげた。

11.最近読んで面白かった作品（上位5作品）

	初教	人環	高校	中学
1	ホームレス中学生	ホームレス中学生	ホームレス中学生	恋空
2	恋空	重力ピエロ	恋空	ホームレス中学生
3	ハリー・ポッター	-	こころ 探偵ガリレオ	君空
4	女性の品格 ダレン・シャン 壬生義士伝 恋愛写真	-	ZOO キノの旅 君空 ドアD 容疑者Xの献身 予知夢	赤い糸
5	-	-	-	しにがみのバラッド

短大生の回答が非常に少なく、複数回答があったものだけをあげた。

12. 図書館への意見や要望

自由記述のため多くの記入はなく、特定の「を入れてほしい」や「CDのジャンルを増やして」などの要望が多かった。高校生に関しては開館時間に関する意見で、遅くまでというよりも朝早く開館してほしいという記述がいくつも見受けられた。今年度目についての意見は「階段が滑りやすくて、暗くて怖い。実際転んだこともある」や「店内(館内だと思う)を明るく」、「トイレが汚いのでキレイにしてほしい」といった施設・設備に関するものと、「図書館の人が怖い」や「話しづらい先生がいる」、「授業のサボりだと思われて嫌な顔をされた」といった図書館の対応の悪さを指摘した意見が記入されていた。

アンケート調査結果は毎年大差なく、予想通りの結果と言える。今年で4回目になるが、全学生・生徒の動向、意見や要望を取り入れる唯一の機会でもあり、この結果を踏まえ図書館活動を見直す材料にしたい。多くの学生や生徒が「なんとなく」図書館を利用しないと回答している。きっと何らかのきっかけさえあれば、利用が増えるのではないかと思われ、図書館からの広報だけでなく先生方の読書のすすめや授業での利用を推進していきたい。

おわりに

前述の活動報告からも分かるように大阪信愛女学院図書館は幼稚園から短期大学までの「総合学院図書館」として機能し、児童・生徒・学生の学習活動や先生方の教育活動を支援しています。また、よりよい支援を行っていくために「図書館活動方針」を策定し、様々な活動に取り組んでいます。

資料の充実は教育活動において重要なことです。しかし、先生方からの購入申請は各校少数の先生に留まっています。中等部において購入申請が10%増加したことは喜ばしいことです。短期大学と高等部は増加傾向にあります。小学校は低迷しています。授業関連図書の充実のためには先生方による選書が必要です。授業に不足している資料や生徒に薦める本を積極的に選書していただきたいと思います。図書館においても授業内容の把握に努め、資料の充実を図っていく所存です。

授業における図書館利用は、高等部において若干増加したものの、まだ、一部の教科において行われている程度です。小学校においては先生方から「読み聞かせ」「本の紹介」「調べ学習のための資料収集」の依頼が定着し、うれしく思っています。先生方に情報活用能力の育成のため、図書館利用を取り入れた授業をお願いしたいと思います。

貸出状況を見ると、短期大学の初等教育学科は実践的図書の貸出が多く増加傾向にあります。人間環境学科は減少傾向にあります。中・高等部は2年生の減少が気になります。小学校は隔週毎に「図書の時間」が設けられ貸出が行われるので安定しています。幼稚園は過去最高の貸出冊数を記録しました。貸出冊数の増加は開室日が多かったためだと思われます。貸出は各校ともほとんどが自由読書によるものです。調べ学習や授業における図書の紹介を通して授業関連図書の貸出が伸びることを望みたいと思います。

保護者・卒業生・学外者の方に図書館を開放しています。年々保護者の利用が増加し、中でも幼稚園の保護者の利用が多くなっています。生涯学習の場として多くの方々に利用していただければ幸いです。

「自ら学び考える力」の育成のためには、図書館を利用した教育がなによりも大切です。図書館は児童・生徒・学生の学びの場・読書の場として大きな役割を担っています。先生方との連携のもと、資料提供・広報活動など図書館活動の充実を図り、利用され活気あふれる図書館をめざしていきたいと思います。